



竹の子川柳会

ちからもちおもたいものをもてるんだ
小二 優

いきものはぐんぐんそだつかわいいな
小二 隆 希

おさんぼですなはまのぼるもうひとつ
小二 心 香

テレビはねみんなでみたらうれしいな
小三 勇 斗

朝おきて太ようのぼるまぶしいな
小三 みるく

朝ごはん力がでるよおいしいね
小四 心 春

サッカーで力をこめたロングパス
小五 太 清

学校でおたがい助け育って
小五 翔 太

下りより上りのほうが僕きらい
中二 清 也

感謝する育ててくれた人達に
中三 海 斗

じっくりと力をつけて受験の日
中三 海 士

力入れ苦手な事も挑戦だ
高一 ななみ

種まいた花が育って写真映え
高三 瑠 依

かけのぼり優勝めざす体育祭
高三 ちひろ

ひよし川柳会

孫達が大笑で祝卒業
山本 雅之

人間の業かも知れぬ酒と色
若宮 賢敬

酒のめば気分も口も軽くなる
木村 貞子

テレビ見て孫踊りだす茶の間沸く
兵頭チヨカ

テレビ中継首相に向かいお説教
菅原 由紀

子供等をテレビが子守ママスマホ
水野すみこ

六十代昔は長寿今若手
伊勢本 恵

長寿でも生き甲斐だけは見捨てない
熊本 忠真

長生きしよう何せ一回きりだから
山本 節

後悔はすまい選んだ道だから
中城 英雄

鏡開き武道精神剣の道
宇都宮 忍

どの道を行くのか子にも夢がある
渡辺 光男

林道は抜けたが居ない後継者
大崎 五葉

湿布薬背中に貼れぬ一人者
川添 忠昭

鬼北の足跡をたどる



解説・等妙寺縁起と鬼北の「おに」伝説②

1320年に開山した等妙寺は、2020年の今年、700年の節目を迎えました。今回はいわゆる鬼北の「おに」伝説が等妙寺開基説話として筆録される「等妙寺縁起」について紹介します。

寺社縁起とは寺院の開創の由来や沿革霊験などを記した文書等のことで、宗教性、歴史性をもち、時には文学性を帯びて物語化します。等妙寺縁起の原本は失われてしまっており、等妙寺にも伝わっていませんが、東京大学史料編纂所などに4本の写本が現存しています。写本には成立年代の記述はなく、地名や人物表記、他の史料の検討によって、縁起の成立は中世に遡るものではなく、江戸時代初期と推察されています。また、縁起成立の背景については寺史との関係で説明されています。中世を通じて隆盛を極めた等妙寺は、近世になると奈良山麓に寺構を整え、前代とは異なる展開を遂げました。鎌倉時代末の開基から250年以上が経過した天正16年（1588）、火災により焼失、荒廃・廃絶するも、2年後に現在の寺地（中世等妙寺の靈光庵）へ移されます。再建された等妙寺は、京都法勝寺末の立場を離れ、比叡山東塔北谷にある惣持房の直末寺となつていますが、一説ではこの頃に、新しい解釈による等妙寺の歴史を残す必要から縁起が記されたと考えられています。



▲等妙寺旧境内福寿院跡